

●共同司会：青木裕司 (世界史科講師)

2011年3月12日、福島第1原発1号機の建屋が水素爆発を起こし、14日には3号機も爆発した。私は「この列島は終わりがもしれない」と思った。そしてすぐに京都大学の小出裕章先生に連絡をとった。河合塾福岡校で緊急講演会のお願いをするためである。5月の講演会には、400人以上の生徒・教職員、そして一般の市民も集まった。中には、福島から避難してきた生徒数名も含まれていた。小出先生の第一声は、「原発事故を防ぎきれなくて、申し訳なく思っています」というものだった。原発の危険性を訴え、原発に反対し続けてきた小出先生の、絞り出すような心からの声だった。一方、「原子カムラ」と呼ばれる人々の口から、心からの謝罪など、ただの一度も聞いたことがない。

事故から3年半。汚染水は漏れ続け、放射性物質は田畑や野山を汚染し続けている。事故は現在も進行しているのだ。この列島で生きていく上で、我々は何をすべきなのか？ 小出先生の講演会が指針の一つとなればと思う。

小出裕章

講演

(京都大学原子炉実験所助教)

— 今も終わらない福島原発事故の真実 —

原発ゼロ社会へ

●共同司会：山田誠司 (小論文科講師)

原発のような巨大技術をつくりだすのは科学者だが、それを利用するかどうかを決めるのは政治家であり、彼らを選ぶ国民である。現在、安倍政権は原発を再稼働させようとしている。政府は福島第一原発事故を受け、これまでの「想定外」を「想定」した厳しい安全基準を新たに作り、そのもとで絶対に安全な原発だけを再稼働させるのだと言う。私たちがこの

の方針を容認すれば、それは私たち国民の決断となり、結果に対する責任も私たちのものとなる。未来世代への重い責任を伴うこの決断を私たちが行うには、多角的な視点を含む情報が不可欠であり、それを求めるのは私たちの義務でもあるだろう。

多くの科学者が国の原子力政策に対して推進・容認の立場をとるなか、小出さんは原子核工学を研究しながら、四十年も前から反原発の立場を貫いてきた希有な科学者である。科学的知見をもと

に事故前から原発の安全神話を否定し、事故後は政府や東電の判断の誤りを指摘してきた小出さんの話は、私たちが重い責任を自覚して決断するための重要な判断材料を提供してくれるだろう。

●プロフィール●

小出裕章

(こいで ひろあき)

1949年東京生まれ。京都大学原子炉実験所助教。工学修士。

研究分野は放射性物質の環境動態、原子力安全。1968年原子力の平和利用に夢を抱いて東北大学工学部原子核工学科に入学。1970年女川での反原発集会への参加を機に、原発をやめさせるために原子力の研究を続けることを決意。

著書に『原発のない世界へ』筑摩書房、『図解 原発のウソ』扶桑社、『原発ゼロ』幻冬舎ルネッサンス新書、『福島原発事故 原発を今後どうすべきか』河合ブックレット など多数。

11月1日(土) 14:00~16:00

池袋校 西校舎 3A教室

入場無料
申込不要

〒171-0021 豊島区西池袋 1-3-12

☎ 0120-198-630

●JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ丸ノ内線・有楽町線・副都心線池袋駅/メトロポリタン口より徒歩1分

